



Join us!!

横浜市立岡津小学校 国際協カクラブ通信【Join us!! ジョイナス】

平成30年10月26日 第5号

担当 井上 文裕 塚本 靖則



お寿司って気持ち悪い!? ゲストをお招きしました!



「岡津と世界をつなげよう!」を合言葉に発足した岡津小学校国際協カクラブ。前回のクラブでは夏休み中、ネパールカレーのダルバートを家庭科室でつくりました。五感を使って世界の食文化にふれることができ、いつも自分が食べているものでも、国が違えば名前も味も使っている材料も違うことに気付けたことと思います。

さて今回は、スペシャルゲストをお招きしました。

JICA 横浜の市民参加協力課の**中野貴之さん**に講師としてお越しいただきました。中野さんは今までに、たくさんの国々を訪れ、国際協力とその手助けをされてきました。中でも青年海外協力隊としてマラウイ共和国に派遣

された経験をもとに、興味深いお話をしていただきました。特に印象的だったのは食べ物についてのお話でした。子どもたちが一枚の写真を見ると、「ぎゃ〜!!」、「ねずみだ〜!!」と大きな声で驚きました。その写真には串刺しにされ、たくさんの焼かれたネズミが写っています。マラウイでは一般的で、市場ではよく売られているそうです。同じように、マラウイの人々が「気持ち悪い」と感じる、日本人に親しまれている食べ物があります。それはなんと「お寿司」だそうです。マラウイの人々は魚を生で食べる文化はなく、生でそのまま食べるなんて「おかしい」、「野蛮だ」とまで、現地の子どもたちに言われたそうです。恐る恐る大人にも寿司について紹介したところ、「マラウイでは、魚を生で食べることはないけれどおもしろいね。もっと聞かせてよ」と言われて、中野さんはほっと安心したそうです。

次の質問をされました。「**あなたは世界を旅しています。ある時、川沿いの貧しい村にたどり着きました。村人はお腹を空かせています。あなたは魚釣りの名人です。さあ、あなたならどうしますか。**」というものです。

この質問は国際協力をする上で、とても大切な考え方を教えてくれます。もし、その場でなにかを食べなければ死んでしまうような事態だったら、魚を釣ってあげることが大切です。しかし、ずっと釣ってあげるのはできないので、魚の釣り方を村の人々に教えてあげることも大切です。このように国際協力において、その国の人々にあった協力や支援をすることがとても大切だと教えていただきました。今回の貴重なお話をもとに、次回のクラブではより深く国際協力について考えていきたいと思っています。



次回の活動日は 12月19日(水) 14:40~15:30です